

“Why do Americans speak in American  
accent?” ～歴史的背景に見る英語の変遷～

基礎演習前期レポート課題

8+

2014年7月16日提出

私がこのテーマにしようと思ったのは、なぜアメリカ人（13州しかなかった独立戦争以前の人々）はイギリスから来たのにイギリス英語を話さないようになってしまったのかということや、なぜ英語には地域によってさまざまな方言、訛りがあるのかが気になったからである。

そもそも私の考え自体が間違いであり、アメリカに渡った人びとの英語が変わったのではなく、イギリス南部の上流階級の人々の話し方が変化していったと考えられる。英語のみならず言語全般に関して言えるのは、言語の変化は歴史的な出来事によってもたらされ得るということである。

イギリス英語はイギリス南部の上流階級で生まれた。産業革命やアメリカ人権宣言、独立戦争などを経て、上流階級となったロンドン近郊の人びとが他の成り上がり者と差別されたいがために生み出したと考えられている。ファッションナブルでハイステータスな英語を話したい人々により、次第に広がりを見せていったと考えられている。

これは具体的に

アメリカ本土では大きな広がりはなかった。理由は諸説あるが、まず初めに20世紀、産業革命や独立戦争を経て世界の中心となったアメリカ。特に、アメリカ中西部と中部大西洋。そこに渡った人びとであるスコットランド人やアイルランド人に大きな影響があると考えている。彼らはイギリス北部のたいして non-rhotic でない英語を話していた。彼らはアメリカ中西部と中部大西洋で財産を蓄え、自立できるようになり、アメリカ本土の各地へ散在することになった。しかしそれはあくまでもかなり過去の英語であり、現在彼らの話す英語は地域特有の訛りがある。アイリッシュの方言 (Irish English または Hiberno English と呼ばれる) でいえば、th の発音を t や d と発音する。つまり think を tink といったようである。スコットランドの訛りは、米国人には非常に聞き取りにくいようだ。r の発音が大変強く、スペイン語のように聞こえるという人もいるほどである。

イギリス人エリートたちもそこへは渡ったのだが、彼らは文化的にも言語的にもアメリカ人の影響を受けなかった。また、原因は独立戦争前からのアメリカにいた人々にもあるのではないかと考える。1773年12月16日に起こった "Boston Tea Party" をご存知だろうか。"Boston Tea Party" とは、イギリス本国に高い税金を払うのを嫌った、ボストン市民約50人が税のかかっている紅茶の箱、342箱を「ボストン港をティー・ポットにする」と叫びながらボストン港に投げ捨てたというものである。それに対しイギリスは抑圧的な措置をとった。そのような状況下でついに1775年4月19日ボストン北西にあるコンコードとレキシントンで独立戦争のきっかけとなったレキシントン・コンコードの戦いが起こってしまった。高い税がきっかけで独立戦争にまでなってしまったアメリカの植民地とイギリス本国。アメリカの国民にとっては、それほどまでに嫌ったイギリス国民が使う英語を使いたく  
なかったのではないだろうか。

「  
単  
独  
の  
原  
因  
で  
し  
よ  
う  
か  
」

イギリス英語は南部の上流階級の人々によって話されだしたと述べたが、現在のイギリスでは地域によってどのような英語の違いがあるのか調べてみた。

まず産業革命で栄えたバーミンガムやリバプール、グラスゴーなどの町はアクセントが

強く、労働者階級として認識されており、卑下されることもしばしばである。特にバーミンガムはイギリスで最もキャリア（就職の際など）に悪影響と言われている。The Telegraph のニュースサイトの記事内でバーミンガムの人々自身も” Birmingham even recently said they wanted to disown their distinctive Brummie accent.”と言い記事に載っているほどである言。ある研究によりどこのアクセントが一番かっこいいとされているか集計された表を見てもらいたい。

#### List of Cool Accents 2008/9

順位	種類	結果
1	Queen's English	20%
2	Scottish	12%
3	Geordie	9%
4	Yorkshire	7%
4	Cockney	7%
6	Northern Irish	6%
7	Welsh	5%
8	Scouse	4%
8	Mancunian	4%
10	West Country	3%
11	Brummie	2%
	Other/Don't Know	21%

The survey of 2000 people by Coolbrands

見て分かるように Brummie accent が下位なのは明瞭である。Brummie accent の特徴は鼻にかかっている、母音である i が oy、you が yow になる、a や o の発音をはっきりとしないなどがある。鼻にかかっている話し方と言われれば確かに良いイメージはない。

1位の Queen's English はイギリス英語の伝統的な事実上の標準発音である。世間にはイングランド南部の教養のある階層の発音、公共放送局の BBC のアナウンサーの発音 (BBC English) 王族の発音としても知られ、外国人が学習するのはこの発音である。Received Pronunciation とも言われている。

私が注目してほしいのは 3位の Geordie accent である。Geordie とは North East England 周辺で特に Newcastle (正式には Newcastle upon Tyne) のことである。私は今までに Newcastle 出身の人と話したことがあるが決してかっこいい話し方とは思わなかった。彼の英語は非常に聞き取りにくく”castle”を「カスル」と発音するので私を含め周りの人たちは終始困っていた。決して彼が悪いわけではなく、私たちがその英語に慣れていな

この書き出しは、  
内容はなぜ自由に  
価値がやせぬかと

いというだけである。しかしながらやはり日本人でも Newcastle に住んだことがあり、長年そこで生活を送っている人は Geordie accent を持っている人と話していても何の不自由もないというし、それぞれの accent をいいと思うかどうかは人それぞれのバックグラウンドにもよるのではないかと推測する。

表からの推測は以上だが、私が言いたいのは言語の移り変わり、地域特有の方言などはそこで起こった歴史的史実に基づいているということである。前述した通り Brummie accent は最もキャリアに悪影響をもたらすと言われているが、彼らは一生懸命働き産業革命である程度富を蓄えた。私はこれからの国際化の進んでいる世界社会でそういった悪いイメージのある方言、accent などへ慣れる、またはすぐに偏見を持たないように教育されていくべきであるとみている。1つめの理由としては accent や方言の違いや、それができた歴史的な背景を知らない人材を育てていると、それらの人材が世界へ旅立ったときさまざまな accent に慣れていないため会話が成り立たないということが起こりうるからである。長年、留学したいと希望していた人がいざニューヨークへ一年留学しに行ったのだが、ニューヨークという土地は世界のさまざまな訛りのある英語を話す人々が集まる。そのため、その人は訛りのある英語が理解できずに、海外で働くという夢を諦めて泣く泣く日本に帰ってきたという話を聞いたことがある。2つめの理由としては訛りのきつい accent を労働者階級や地方出身というだけで差別して毛嫌いしてしまう危険性があるからだ。これは英語のみならず日本語でも言えることで昔、東北弁が韓国語（朝鮮語）に似ているからという理由で差別されたという噂を聞いたことがある。これでは国際化どころではなくなってしまう。欧米諸国に比べて外国諸国と触れ合う機会が少ない日本人はなおさらである。会話が成り立たない、差別してしまうなど、知識不十分によって生じる問題の解決のためには日本では中学校（現在は小学校）で英語を初めて習うときに多少なりとも、イギリスやアメリカ各地の歴史を学ぶ必要があると考える。外国が外国の言語を学ぶ際にもその地域ごとの歴史を学ぶのが相互理解への近道ではないかと考える。

このバックグラウンドは自分の主張には、必ずしも示されていなくてもよい。

参考文献

Matt Soniac “When did Americans lose their British accent?”

<<http://m.mentalfloss.com/article.php?id=29761>>2014/06/11

Natalie Wolchover “Why do Americans and Brits Have Different Accents?” <

<http://m.livescience.com/33652-americans-brits-accents.html>>2014/06/11

9 John Algeo (2001) “The Cambridge History of the English Language” Cambridge University Press

The Telegraph “Brummie accent voted least cool in Britain” < Brummie accent voted least cool in Britain >2014/07/13

Alison Baxter (1999) “The USA” Oxford University Press

Weblio 辞典クイーンズイングリッシュとは

<<http://www.weblio.jp/content/%E3%82%AF%E3%82%A4%E3%83%BC%E3%83%B3%E3%82%BA%E3%82%A4%E3%83%B3%E3%82%B0%E3%83%AA%E3%83%83%E3%82%B7%E3%83%A5>>2014/07/13

② ③ ④